

エレミヤ書48章11-12節 「快適さのもたらす呪い」

1A 安らかなモアブ 11

1B 豊かな地

2B 守られた地

3B 捕囚となったことのない民

2A ぶどう酒の滓

1B 器に移すことによる精製

2B 動かさないことによる酸化

3B 酒蔵の番人による粉砕

3A 神の練り清め

1B 器が移される時

2B 主への拠り頼み

本文

エレミヤ書 48 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは先週で、46 章まで来ました。諸国への預言を読み始めましたが、今日は午後礼拝で 47 章から 49 章までを読みたいと思っています。今朝は 48 章 11-12 節に焦点を合わせたいと思っています。「11 モアブは若い時から安らかであった。彼はぶどう酒のかすの上にじっとたまっていて、器から器へあけられたこともなく、捕囚として連れて行かれたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、かおりも変わらなかった。12 「それゆえ、見よ、その日が来る。…主の御告げ。…その日、わたしは、彼に酒蔵の番人を送る。彼らはそれを器から移し、その器をあけ、そのつぼを砕く。」

ここは、モアブに対する神の預言です。モアブは、ユダ国の東にあります。ユダの東には死海があり、その向こうにモアブがあります。モアブも、他の周囲の国々と同じようにバビロンによって攻められ、捕え移されました。私たちはずっとユダの国がバビロンによって攻められて、滅ぼされたところを見ましたが、実は、その周囲の国々も攻められました(27 章)。エレミヤは、バビロンが攻めてくることを前もってこれらの諸国に語ったのが、47 章から 49 章までの内容になります。

1A 安らかなモアブ 11

主は、「モアブは若い時から安らかであった。」であったと言っておられます。モアブと言う国が、もともと人々を楽にさせる、安定した生活を提供していました。

1B 豊かな地

モアブは、死海の東、アルノン川とゼレデ川の間にある高原にあります。平らな高原に野原が広がっていて、イスラエルに飢饉があってもモアブには作物が育ちました。ルツ記が、そのことを教

えています。エリメレクとナオミが、自分たちの住んでいるベツレヘムの地方が飢饉になったので、モアブに移ったことが書かれています。そしてエレミヤ書 48 章を読めば、モアブがぶどうの実が結ばれるところとして有名であったことが書かれています。農業をするのに、その地形と気候に恵まれていたのです。

2B 守られた地

さらにモアブは、外敵から守られる地形を持っていました。これはイスラエルと大きく違います。イスラエルは、エジプトが南にあり、北のメソポタミア地方から、アッシリヤ、その後はバビロンが台頭、その後もペルシヤ、ギリシヤ、ローマ、すべてが北から勢力を拡大させていきました。エジプトとユーフラテス川流域をつなぐ国際幹線道路があり、通商をする中継点であったと同時に、そこが大国と大国が衝突する中間点でもあったのです。それで、数多くの戦いがイスラエルの辺りでいつも起こっていました。

けれども、モアブは違います。東は基本的に高地です。モアブの北には、ギルアデの山地があります。ギルアデは「凸凹」という意味があり、凸凹の山地です。そして、モアブの南はエドムで、エドムも高い山々があります。そしてそれぞれ、北はアルノン川、南はゼレデ川という溪谷に挟まれており、ヨルダンではこの二つが「ヨルダンのグランド・キャニオン」と呼ばれるように、大きな溪谷を成しています。そして西は死海、東は沙漠となっています。それで、その地形そのものが、陸地の島、海に囲まれている島のように、外敵から守られていたのです。

3B 捕囚となったことのない民

それで、彼らは歴史の中でずっと、外敵によって攻められて、捕囚の民となったことはありませんでした。ここに、彼らが安心して暮らす理由がありました。何か、日本列島と似ていますね。水が豊富で、日本の土壌は農作業に適しています。そして海に囲まれていて、外敵が入ってくるのが難しいです。そして、日本史の中で一度たりとも、他の国の支配下に入った事はありません。昔から、若いことから安らかだったとすることができるでしょう。

興味深いことに、キリスト教の広まりは人々が社会不安の中にいる時、また外敵に攻められたところ、そういった踏みつけられたところ。揺るがされたところで起こっています。朝鮮半島では、朝鮮戦争の後、北朝鮮から逃れたキリスト者によって韓国で教会が始まり、そして 1970 年代に霊的復興が起きました。中国は文化大革命の後に、家の教会によって霊的復興が起こっています。中東では、イランにおいてイスラム革命が起こってから急激にキリスト者が増えました。

日本を見てみましょう。とても少ない人数ですが、それでも沖縄においては、その割合としては圧倒的にキリスト者が多いです。そこは、まさに米国による占領、またその前は日本による併合を経て、踏みつけられたところでした。そしてその日本でも、キリスト者が増えたのは、カトリックですが戦国時代です。その時は今みたいな秩序はありません。誰もが信じられない、頼れない。その

ような時に、自分たちが生きることを教える、神ご自身に信仰を置いたのです。しかし、安定したところ、対立の少ない所、平穩に暮らせているところではキリスト者は少ないです。神に頼る必要を感じないからであります。こういったことを、これからじっくり見ていきます。

2A ぶどう酒の滓

モアブ人の安らかさが、彼らを高慢にさせ、また腐敗させたことを、ぶどう酒を通して、主が教えておられます。

1B 器に移すことによる精製

ぶどう酒は、底に沈殿する澱(おり)とい沈殿物が溜まります。その澱からぶどう酒の液体を引き離すために、他の器に移しかえます。そうすることによって、ぶどう酒をもっと精練させることができます。これを、「清く澄む」と書いて清澄(せいちょう)と言うそうです。

2B 動かさないことによる酸化

もし、器に移しかえないとどうなるでしょうか？「**それゆえ、その味はそのまま残り、かおりも変わらなかった。**」とあります。そこに溜まっている澱が、ぶどう酒全体を腐らせます。全体に酸味を上げます。清められない状態のままになってしまいます。

3B 酒蔵の番人による粉碎

もし清められないもの、酸いぶどう酒であれば、どうするでしょうか？その器からぶどう酒を捨てます。それからその器は、澱がこびりついており、使い物にならず、それで酒蔵の番人はそれを砕きます。

それが、「**捕囚として連れて行かれたこともなかった**」者たちへの神の裁きです。モアブにバビロンが攻め入ります。町々をくまなく攻めます。そして、モアブ人は完全に捕え移されます。モアブは荒らされます。そして残りの者が戻ってくるのですが、その時は既に民の姿を呈していません。したがって、「安らぎの中に居留すると、清めがなくなり、ついに全体が酸っぱくなり、根こそぎ取り除かれる」という裁きを受けるのだということです。

3A 神の練り清め

これが、主がモアブを通して私たちに教えている教訓であります。「便利な生活」「安逸な生活」というものが、いかに私たちに駄目にしてしまうかを教えているところです。「問題のない生活」こそが、最も問題であり、自分を駄目にしてしまいます。しかし、主は時に私たちの居心地を悪くさせます。そして、自分に頼らなくなるように、神を求めることができるようにされるのです。

私たちの現代社会は、「不便を軽減する」ということに命をかけている、といっても過言ではないでしょう。大変なことを軽減して、物事がすぐに解決できるようにすることが最大の価値観であるか

のように思えます。コンビニはその代表的な存在です。家の隣、または数軒先のコンビニで食べ物を買うだけでなく、銀行の ATM もあるし、ファックスも送れるし、どこかに振り込まなければいけないものを送れるし、生活のあらゆることが、少し歩いたところで全て済ませることができます。電車も正確にやってきます。道路も整備されているので、車の運転にも困りません。快適に暮らすことが最も大事にされている社会であり、何かをしようとする時に、外から邪魔されることがない空間が与えられています。

ところが生活は反対に、窮屈になってきます。実に不思議です。私たちに余裕が出るために、便利を迫ったのに、かえって自由が奪われています。それは何か？「主に感謝する心」がどんどん、狭くなっていることです。主が働かれていること、自分の内に神が生きておられること、そして自分が生きているというその実感がだんだん奪い取られていってしまうのです。主によって生きているのに、いつの間にか、何か他のものに追い立てられて、その虜にされている自分を見つけます。それはモアブと同じ状態なのです。モアブには、彼らの神々がいました。農業に困らない。外敵も少なかった。だから、何をしたかという、神々を拝み、宮参りしていたのです。私たちの生活の中で、たくさん、そういう神々がいます。自分の欲する事柄に取り囲まれて、その虜にされてしまっていることに気づくのです。便利な中に数多くある「神々」に取り囲まれているので、まことの神を思う時が削がれています。

日々の生活は、昔は一つ一つのことで時間が費やされました。洗濯一つ取ってみても、洗濯機がなかった時代は、それだけで一時間を費やすのは容易かったでしょう。そして、買い物をするものなら、さらに一時間、二時間かかったのではないのでしょうか。車もなく、またスーパーではないので、品を全てかい揃えるのに、市場でいろいろなお店を周らないといけません。一日の生活で、本当に生活の基本だけやるだけで、全てが費やされてしまいます。

実は、私たちが海外の地で生活していた時は、かなり不便でした。洗濯機は自分の部屋にありませんでしたが、共同のを使いました。そしてお風呂、シャワーもありませんでした。これまた共同の給湯器からお湯を持ってきて、そのお湯を水で薄めて、行水をしていました。そして妻は、バスに乗って一週間に一回、市場に買い物に行きました。まるで、数十年前の主婦の姿を見たかのようです。文字通り、髪を振り乱して、リュックにもものすごい量の食料を買い占めてきました。そんな感じですので、生活が基本的なことをするので一日が過ぎ去ってしまったのです。

しかし、そんな時は、ある意味で人間らしい生き方をしているな、と思いました。人が人としてしなければいけないことをやりくりして、一日が過ぎると、「この一日を主に感謝します」と言うことができます。さらに、私たちの生活は危険でした。歩道を歩いても、車が走ってきました。ビルの建設現場では安全ネットは張られておらず、火の塊が私の数メートル先に上から落ちてきたこともあります。けれども、その危険に囲まれていたので、「自分が生きているのは、神によって守られているからだ。」と思うことがとても、容易でした。自分は生きている、いや、生かされているということが

とても分かったのです。

これが霊的な面で起こります。もし私たちが、主に命じられたことのみを目を留め、それを行なっていたら、それは本当の意味で安らかでいることができます。教会において、また教会から遣わされてそれぞれの生活の領域に行く時に、主に命じられた事のみを行なっていれば、他のことは主にお任せすることができます。別に、主に命じられたこと以外をする必要はないのです。

ところが、不必要なことを行なわないといけないと私たちはいつの間にか思います。自分の罪について、過去については、イエス様が全て十字架の上で負ってくださったのに、あたかもまだ赦されていないかのように心の中をいじくりまわります。主が、他の人々のことは世話をしてくださると仰っているのに、他の人々との関係を心配しています。本当に主に命じられたことだけをしていけばよいのに、他に何をしてしようとして、そしてしなければいけない最も大切なこと、つまり「神に信頼する」ということをしていないのです。

1B 器が移される時

しかし主は、本当に私たちがしなければいけないことをすることができるように、器が移されることがあります。それは、自分の生活にとって、自分のやっていることについて、とても不都合な出来事であったり、環境であったりします。

最近、自分が他の器に移された、と感じることはあるでしょうか？いつもと変わらぬ、快適な環境が変えられたということはないでしょうか？新しい仕事かもしれません。また、自分にはあまりかかったことない病かもしれません。また、主に示されて、それでやらないといけないと悟った新しい事柄かもしれません。あるいは、自分あるいは近しい人が事故に遭ったかもしれません。そうしたことが起こっている時に、実は自分自身が神によって、新しい器に入れ変えられている時と言えるでしょう。自分にとって快適な空間、安定した空間が無くなった時、その時こそ、主が何かをさせています。そして自分の底に溜まっている澱から離れて、新しい器に入れられているのです。

私たちは、保護がなくなるとかえって強められます。過保護にされることによって、かえって弱まってしまうですね。滅菌をすればするほど、かえって菌によって感染してしまう。木も、雨風に当たらないように保護したら、かえって弱まってしまう。雨風によって根をさらに深く張るようになるからです。けれども、私たちは守ろうとしてしまう。しかし、それは自然の法則、神の法則に反することを行なっているかもしれないのです。主は不都合なもの、不便なものを私たちに入れることによって、かえって練り清め、健全にし、練り清めてくださる働きを行ないます。

2B 主への拠り頼み

私たちは新しい器に入れられると、底にある澱から清められます。なぜなら、自分ではなく、神に祈らなければいけなくなっているからです。自分ではコントロールできない状況だからです。自分

がやりくりしてやっていけません。そこで祈り始めます。すると、本来、自分ではなく神によって生かされていることに気づき始めます。すると主が事を行なっておられることに気づきます。「事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。(ローマ 8:16)」

そして主により頼む時に、自分ではなく主が実を結ばせてくださいます。自分の生活から良いぶどう酒ができることでもあるのです。「ガラテヤ 5:22-23 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」ヤコブは、こう言いました。「ヤコブ 1:2-3 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。」忍耐が生じて、そして全き人となると書いてあります。成熟するのです。

ぜひ、自分の生活にある不便を受け入れてください。神を認めてください。それを無くそうとするのではなく、受け入れて神に拠り頼んでみてください。無くそうとする生活が、この世が提供する生活です。なくしているように見えますが、次第に生活全体が汚れていきます。澱んでいきます。味のないもの、空しいものになっていきます。そして最後は、永遠に神から離れた、地獄というところに生きなければならないのです。そうなる前に、神の手の動きを受け入れてください。